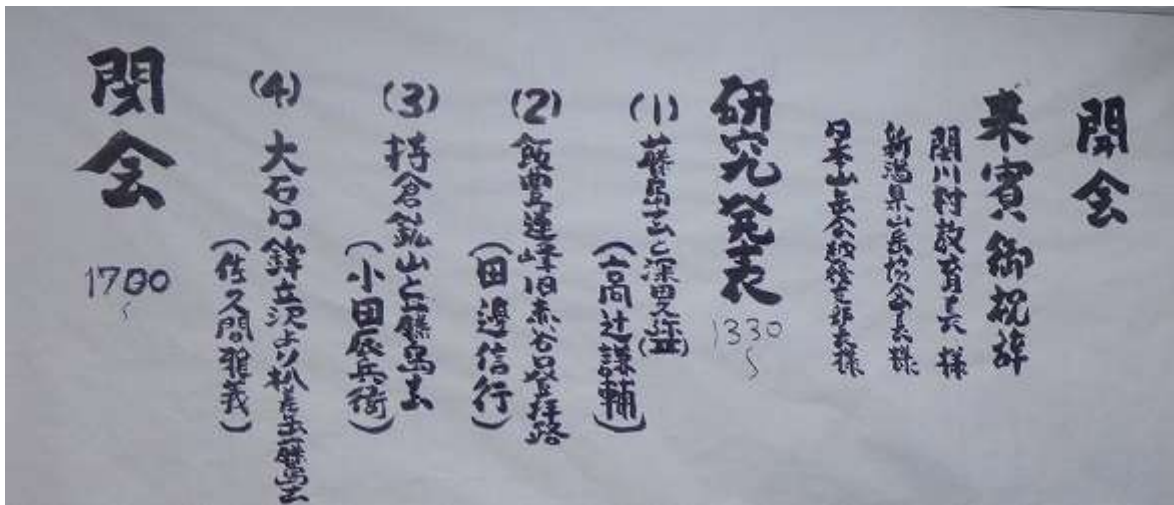


2022. 10. 17 第 5 回藤島蔵書研究発表会開催

関川村・ふれあいの自然の家

参加：40 数名



開会挨拶は藤島蔵書研究会代表の平田大六氏に始まり、来賓の関川村教育長（代読 稲葉氏）稲田春男新潟県山岳協会長、桐生恒治越後支部長より頂戴しました。



講演 1 藤島玄と深田久彌 高辻 謙輔

月刊：刑政（昭和 25 年 7 月）久彌「格子なき牢獄」から始めて、皆さんを引き込みました。



飯豊連峰に深田家族を案内した玄さん、高頭祭に参加した深田氏の話が語られました。

講演 2：「飯豊連峰旧赤谷口登拝路」

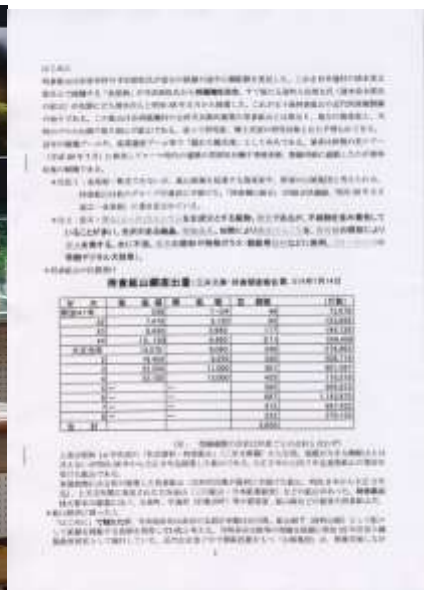
田邊 信行



A4版 20 頁に纏められた配布資料を基に、明治 4 1 年の飯豊山（出羽深山記の 1）から遡り、平成 10 年「飯豊道」五十嵐篤雄までの資料の概要を記載している。湯の平温泉の発見秘話、流木（ハルギ）と称した伐採作業、それを利用した登拝道の成立から、登山道への展開。湯の平温泉小屋の今昔等がスケッチで紹介されている。超力作である。

講演 3. 藤島玄氏著書・参考記録上の持倉鉱山（一部他書含む）

野生あじさい愛好家（山野草同好人） 小田辰兵衛



10 冊以上のアルバムファイル、資料を持参され。A4 版 27 頁及ぶ配布資と A3 のカラー地図を用いて熱っぽく持倉鉱山（銅）の縁起・歴史・生産量・其の遺構の発見から調査に関するお話を頂戴した。玄さんの記載は、日本平山「南に紫葳銅山、北に持倉銅山に、」あり、笠原藤七氏のお名前も散見された。明治 38 年頃から稼業し、大正 8 年頃には、222 銅噸を生産していた。小田氏は阿賀の里の観光ツアーへの偶然の参加～興味が沸き、渉猟を開始したとある。その熱意と情熱に敬意を表します。

4. 講演 大石口・鉾立沢より杵差岳行き 佐久間雅義

昭和 26 年 6 月 5 日から 7 日 大熊小屋をベースにした二泊三日の行程であった。



6 月の飯豊の沢のデブリによる雪渓を避けながらの遡行が、曇天の下決行された山行きであった。ロープもなく、残雪の沢遡行の厳しさがひしひしと感じられる遡行であるが、随所に花の記載が出てくる楽しみもあった山行記録である。

講評兼閉会の挨拶 遠藤家之進正和

各自 45 分の持ち時間を精一杯活用し、総て内容の濃い発表であった。藤島蔵書の研究発表会も 5 回を経て、益々研究の方式、成果、安定感が得られて来たと感じている。ご参加の皆さんの理解と協力を得つつ今後も継続をお願いしたい。

記 佐久間雅義